

効果的な

箱わな捕獲マニュアル

令和2年
2月作成

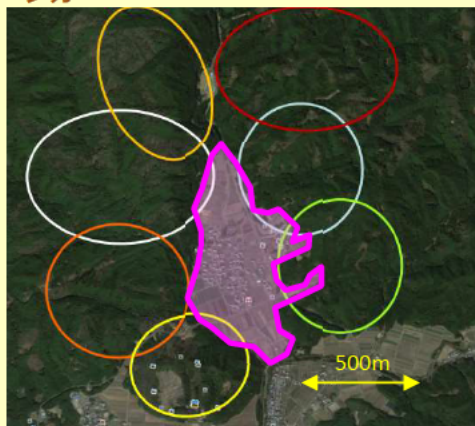
被害軽減には集落周辺での捕獲が効果的

集落で農作物等の被害を起こす加害獣となるイノシシ、ニホンジカ等は、集落周辺を行動域としています。そのため、被害軽減には、被害の原因となる加害獣を捕獲する必要があります。

集落で捕獲を進めるには、集落内での被害対策(農作物残渣などのエサ場をなくす、柵を設置して農作物を守るなど)と合わせて実施することが大切です。また、集落で捕獲する手法としては、安全面と複数捕獲の点から箱わなが適します。

集落周辺のシカ、イノシシの調査結果

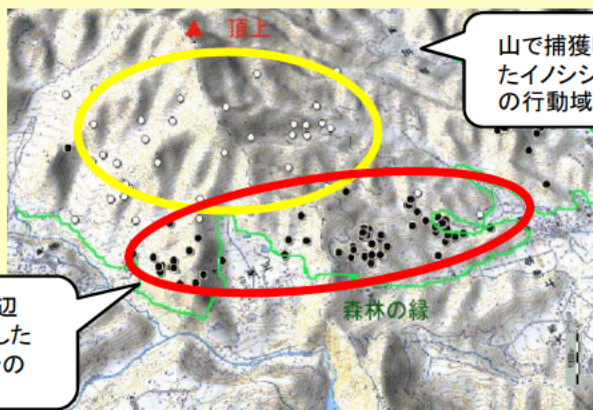
シカ



三重県農業研究所:シカGPS調査結果の模式図

- 行動範囲(楕円部)は、1km²程度
- 昼間は山で、夜は集落(ピンク囲い)周辺で採食
- あまり季節移動がない

イノシシ



集落周辺で捕獲したイノシシの行動域

山で捕獲したイノシシの行動域

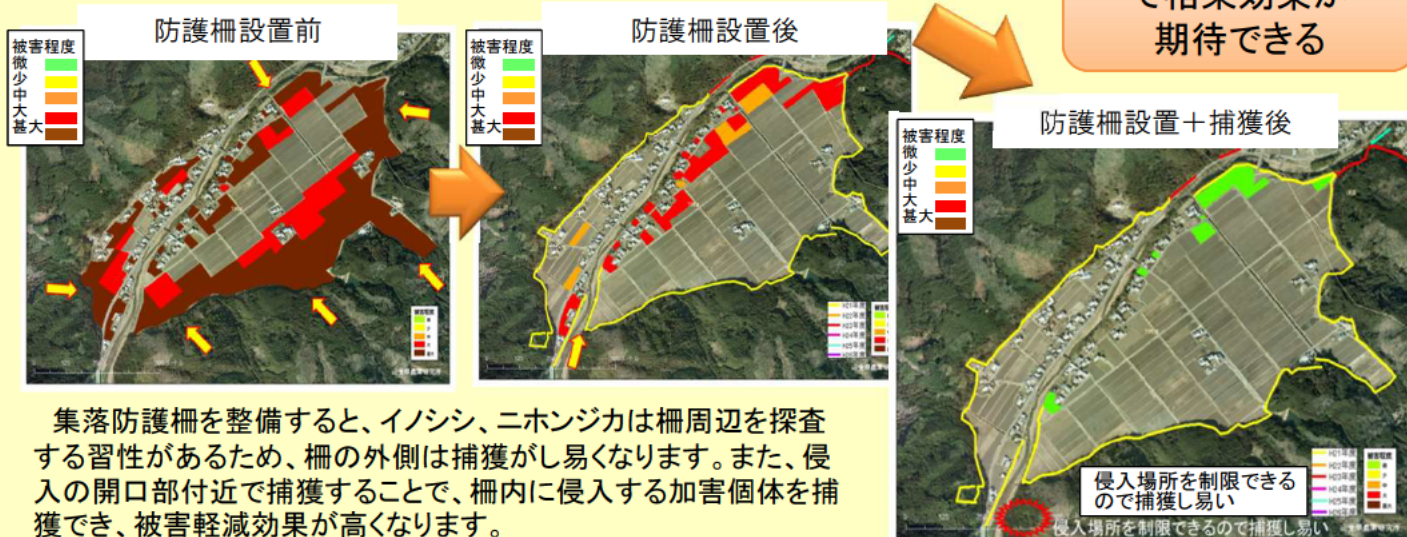
提供:山梨県総合農業技術センター:本田 剛

- 山中で捕獲したイノシシは山中を行動域にしている
- 集落周辺で捕獲したイノシシは集落に依存した行動域にしている =加害個体

侵入防止柵と捕獲の組み合わせは効果的

侵入防止柵を整備している地区では、捕獲により大幅な被害軽減が期待できます。下図は、集落周辺に侵入防止柵を整備した集落が、捕獲によるシカ被害に成功した事例です。柵整備により、被害は軽減しましたが、河川と道路からの侵入による被害が継続していました。侵入部付近で捕獲を実施し、被害は大幅に低減しました。

防護柵設置+捕獲
で相乗効果が期待できる



集落防護柵を整備すると、イノシシ、ニホンジカは柵周辺を探索する習性があるため、柵の外側は捕獲がし易くなります。また、侵入の開口部付近で捕獲することで、柵内に侵入する加害個体を捕獲でき、被害軽減効果が高くなります。

捕獲の手順

Step ① 場所を決める



設置ポイント

- ◆被害農地近くの山際
- ◆足跡や獣道近く(ただし獣道には置かない)
- ◆道路等から隠れた場所



管理上の利便性の良さなどの人間側の都合より、動物の利便性の良い所を選ぶこと!

Step ② 箱わなを置く

捕獲時と同じ環境にするため初めからトリガーなどは仕掛けておく。

- ただし、ゲートだけは落ちないようにストッパーをし、固定しておく
- 箱わなの工業用油の臭いや塗料の臭い、下部メッシュの埋戻しなどは、(諸説ありますが)餌付けがしっかり出来ていれば、それほど大きな問題ではない



Step ⑤ 捕獲後は・・・?

捕獲後、すぐに次の個体がある場合もあるが、暫く来ない場合も多い。

- 再度、箱わなの外～入り口にエサを置き、入りそうか再チェック
- エサが食べられていれば、捕獲継続
- 来てなければ、③～④を繰り返す
- 餌付けを続けても食べない場合は箱わなを少し移動させてみるのも良い



Step ④ 捕獲する

捕獲当日は餌を外から取られない程度に、なるべく奥の方にまく。

- トリガーやゲートがスムーズに作動するか、入念にチェックする



Step ③ 餌付けて誘引する

警戒心が完全に無くなるまで餌付けする。

- 餌付けは箱わなの手前(外側)から順番に誘引する
- 誘引できたら、手前のエサは除去(いつまでも置いておかない)
- 餌の減り具合を見ながら徐々に箱わなの中へ餌付けし、一番奥でも警戒心なく食べるようになるまでしっかり餌付けする
- 1度に大量に与えず、毎日欠かさず、一日で食べられる量だけの餌をまく
- 一番奥の餌が連日完食されるようになればOK
- 餌をまいても食べない場合は古くなった餌を除去し、新しい餌をまき直し、しばらく様子を見る



しばらく餌付けしても餌が食べられない時は・・・

- 餌の種類を変えてみる。
- 他の餌になるもの(栽培している農作物等)の管理を徹底する。
- 場所を変える。
- 無理をせずしばらく休む。
- くくりわなも併用してみる。

餌付けのポイント

- ◆野生動物は警戒心が強く、臆病であるため、まずは安心してエサが食べられる場所だと学習させる。
- ◆徐々に檻の奥へ誘導するように、エサをいつまでも檻の手前に残さない。
- ◆数日間、檻に来ないこともある。その場合もエサの置き場所を戻さない。一週間近く来ない場合は始めからやり直す。



1. 檻の前に誘引する

- ・ゲートから2m程度の範囲に数か所置く
- ・ゲートのすぐ前にも1か所置く
- ・けり糸は設置しゲートが落ちないようにロックしておく



2. ゲートの前に誘引する

- ・ゲート前後に数か所置く
- ・最初は檻の手前のエサも少量置き、ゲート前後のエサに手を付けたら、檻の手前のエサは無くす



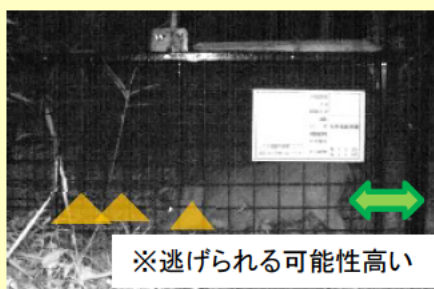
3. ゲートの奥に誘引する

- ・ゲートの奥に数か所置く
- ・最初はゲート手前にも少量置き、ゲート奥のエサに手を付けたらゲート手前のエサは無くす



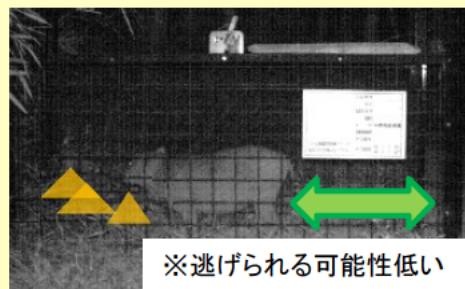
4. 檻の中に誘引する (後ろ足を中へ)

- ・完食したらエサの位置を奥へ移動するを繰り返す



5. ゲートの奥に誘引する (けり糸に当てる)

- ・完食したらエサの位置を奥へ移動するを繰り返す
- ・まだゲートを落とさないようにロックしておく



6. けり糸が反応しても警戒しなくなったら餌付け完了

- ・念のためトリガーの反応を確認、ゲートの落下のテストをしたらロックを外して捕獲開始

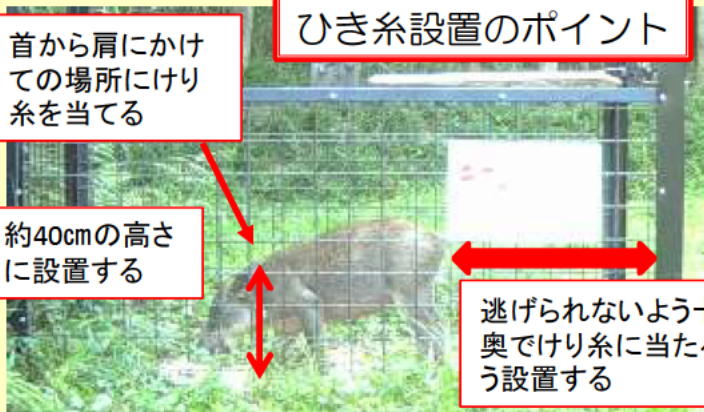
成獣（イノシシ（特にメス））の捕獲が効果的

ひき糸設置のポイント

首から肩にかけての場所にけり糸を当てる

約40cmの高さに設置する

逃げられないよう十分奥でけり糸に当たるよう設置する



なぜ成獣（特にメス）を捕る必要があるのか！！

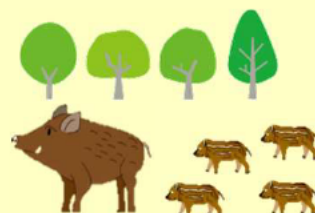
- ・イノシシの死亡率
1歳までに約50%が死亡するという報告あり。
→死亡率の高い幼獣を捕獲してもあまり意味がない
- ・イノシシの妊娠率と産子数
2歳で8割程度、3歳以上は9割以上が妊娠し、平均4~4.5頭出産という報告あり。
→個体数を増やすメスの成獣を捕獲する必要がある

幼獣、タヌキ等の捕獲を防ぎ、成獣を捕獲するには高さ40cmが良い

出没初期や出産前の捕獲が効果的

ニホンジカ、イノシシは初産年齢が早く、成熟したメスは、ほぼ毎年、繁殖を繰り返します。特にイノシシは、1回に複数頭を出産するので、加速度的に増加していきます。そのため、今まで出没していない地域で出没を確認したら、早い段階で捕獲することが肝要です。また出産後よりも出産前の時期の捕獲の方が、効果的です。

	初産年齢	出産間隔	出産数	出産時期
イノシシ	ふつうは2歳	ほぼ毎年	2～8頭	3～7月
ニホンジカ	ふつうは2歳	ほぼ毎年	1頭	5～7月



ニホンジカが高密度で生息している地域での実証事例

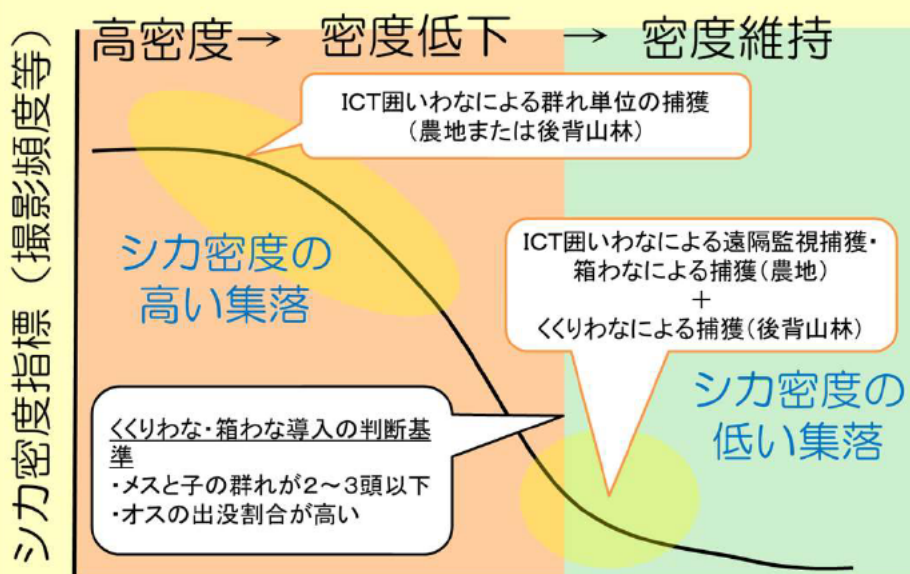
ニホンジカが高密度で生息している地域においては、密度低下を図る方法として、群れ単位の捕獲後、農地と林地(後背山林)での併行捕獲が効果的です。

ステップ① 密度低下を図る

シカの密度が高い場合、ICTによる遠隔監視・操作システムを活用した大型囲いわなを用いて、群単位でシカを捕獲する。

ステップ② シカの密度が低下した場合は、農地と林地での捕獲を併用

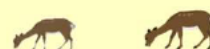
シカの密度が低下すれば、シカの密度を維持していくために、農地では箱わなやICT囲いわなによる捕獲、林地では、くくりわなによる捕獲を併行して行う。



注意

捕獲する際は、囲いわなの周りにはいる個体も取り逃がさないように、群れで捕獲すること。

→ 囲いわなの周りで見ている個体を取り逃がすと、わなへの警戒心を持ったシカを増やしてしまう恐れがあるため。



作成・発行: 三重県

問合せ: 農林水産部獣害対策課

三重県農業研究所

三重県林業研究所

TEL 059(224)2017

TEL 0598(42)6356

TEL 059(262)5352

<http://www.pref.mie.lg.jp/SHINRIN/HP/mori/000180095.htm>

(当資料はHPからもダウンロードできます)

